

事業区分	文化芸術事業		育成・創造事業				
事業名	ヤング・プロデューサーズ・シリーズVol.2(演劇公演) 「トップガールズ」		助成:(財)地域創造、大和日英基金、 文化庁				
目的・内容	地域における演劇プロデューサーの育成、鳥取県内で上演が乏しい海外戯曲の紹介、地域の自主演劇公演の舞台効果の質の向上を図るため地元スタッフの育成、戯曲を通じた演劇の理解者の拡大を目的に実施。演劇プロデューサーを育成することで、地域での自主演劇公演の活性化、自立を図る。						
開催日	平成23年3月3日(木)～6日(日) 全6公演						
会場	米子市文化ホール イベントホール						
入場料 (友の会・団体)	一般 2,000円 (1,500円)	大学生以下・外国籍の方 1,000円	高校生以下・障がい者 500円				
集客状況	入場者数	434名	設定席数	600席			
事業費状況	予算額	収入	6,630,000円	支出	13,116,000円	収支比率	51%
	決算額	収入	6,478,370円	支出	15,286,422円	収支比率	42%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 195名	<ul style="list-style-type: none"> ・会話のテンポが良く、引き込まれました。舞台上で食べたり、飲んだりすることの多いことにも驚きましたが、楽しい演出だと思いました。結構長い舞台でしたが、あっという間に感じるくらいおもしろかったです。 ・演劇は初めてでしたが、大変楽しめました。 ・役者の演技も良かったし、衣裳や大道具などのセットも良かった。 ・ストーリーがわかりにくかった。 ・3時間の公演は長い。 ・終演時間を前もって知らせてほしかった。 ・イスが長時間座るのには辛かった。 ・もう少しPRしてほしい。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇活動者の中から翻訳、プロデュースができるプロデューサーを発掘し、将来鳥取の文化芸術活動を牽引していくリーダーの育成を図ることができた。 ・10～20代の鑑賞者が全体の3分の1を占め、若い世代の演劇鑑賞者獲得に繋げることができた。 ・演劇教育の本場である英国の演出家に指導を受けたことにより、地元演劇活動者のレベルアップとモチベーションを高めることができた。 ・海外の演出家を招聘しての舞台と、海外戯曲作品を公演することで、演劇の鑑賞者及び理解者の拡大が図られた。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来ならば、全てプロデューサー指揮の下で事業を推進すべきところだが、仕事を持っていたこともあり、当財団が先行して進める場面やプロデューサーの負担も大きかった。 ・海外戯曲、海外演出家起用、公演数(6回)など初めての試みであったため、調整に時間を要し、事業推進が滞ることもあった。 ・プロデュースできる人材を育成したことにより、新たなユニットの立ち上げやネットワークの広がりなど、今後の活動を検証することが必要である。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の演出家を招き、若手プロデューサーを起用するという積極果敢な取り組みは評価できる。 ・優れた海外戯曲を紹介し、英国人演出家の指導を受けながら地元参加者が舞台を作り上げた本事業は、作品創造においては有意義なものであったと評価できる。 ・女性が葛藤を抱えながら前向きに生きていこうとする姿を演じた役者陣の熱演が光っていた。また、脚本に少し地元の言葉を入れるなどの工夫も良かった。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヤング・プロデューサーシリーズ」で起用した人材が、地域でプロデューサーとして自主的に活動を続けて行けるような、継続的なフォローや体制作りも考える必要がある。 ・プロデューサーをフォローする体制など課題も挙がっているが、新しい手法にチャレンジした結果であり、今後も新しいネットワークを生かして挑戦する姿勢が必要である。創造性に富んだ、表現力や技術力を高める今回のような試みの継続が望まれる。 						
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度からはプロデューサーと事業実施者で業務を分担(実施主体者が広報を担う)して、県民プロデューサーの業務環境を改善し、引き続き、将来鳥取の文化芸術活動を牽引していくリーダーの育成を図っていく。→実施中 ・初めて取り組む事業については、より綿密な計画を立てたうえで事業推進を行うようにする。 ・今後も新たなネットワークを構築していくとともに、創造事業を継続していく。 ・起用した人材の継続的なフォローや体制作りを検討していく。 						